

若桜往來の宿場町に架かる 登録有形文化財・土木学会選奨土木遺産

わか さ 若 桜 橋



鳥取県若桜町

鳥取城下から若桜を経て、戸倉峠越えで播磨に至る道は「若桜往来」「播磨道」とよばれ、若桜から氷ノ山を越える但馬への道は伊勢へ向う「伊勢道」とよばれていました。若桜往來の宿場町として近郷の物資の集散地的性格を高めてにぎわう若桜でしたが、元禄以降たびたび火災に見舞われました。このため明治 18 年の大火災後、道路改修にあわせた町づくりは防災を考慮して道路幅を広げ、カリヤや水路を設け、裏町通りには土蔵のみとして住家を禁止しました。若桜独特の町並みは地域の防災への思いによって生み出されたものです。今でこそ知る人も少なくなりましたが

若桜よいとこ 太鼓の町よ 裏も表も 川ばかり

若桜よいとこ 雨の日も カリヤ伝いに 傘いらぬ

と若桜宿の人々に唄われた小唄があります。

昭和 8 年（1933）、若桜宿の南の入口に「若桜橋」が着工され、翌 9 年 7 月に完成しました。延長 83.3 m、幅員 5.5 m、3 径間のアーチ橋は「鬼ヶ城の山々の下、白垂のモダン橋が出現」と当時の新聞に報じられています。この橋は、昭和初期の世界恐慌の波が日本にも押し寄せ、農村不況及び失業者対策事業（時局匡救事業）として架設されたものです。県内ではこの事業で建設された橋梁は 14 カ所に及びますが、そのほとんどが RC の T 型ゲルバー桁で若桜橋と大山登山口の登山橋（並行リブと細長柱による単連の RC 開腹アーチ橋）はその構造、意匠において特異な存在といえます。

70 年以上が経過した今もなお、若桜橋は当時とほとんど変わらない姿で若桜の美しい自然に造形美を添える橋となっています。当時を象徴する景観やデザインもさることながら、当時の橋梁建設技術が高度に発達していたことを伝える上で、重要な文化財であると言われています。このため平成 16 年に選奨土木遺産に認定、同 19 年に国登録有形文化財に登録されました。

■位置図



ヴォールトアーチ

ヴォールトとは、アーチを平行に押し出した形状（かまぼこ型）を特徴とする天井様式及び建築構造の総称。昭和初期に 3 連という規模のアーチ橋は鳥取県下でも例がなく貴重な土木遺産である。



若桜宿に今も残るカリヤと軒下を流れる水路
通行の妨げとなるものや火事の媒介となるものを置くのは禁止されていた。



若桜橋

白垂の 3 連のアーチが美しい若桜橋。昭和 40 年国道 29 号の改築により下流に鶴尾橋が架けられたため、若桜橋は生活道路として利用されている。